

団体型、女子組手等の見所



1, 蹴武型・団体戦(選抜・推薦5チーム)見所

福岡筑紫野テコンドークラブの3連覇濃厚

蹴武の型は日本跆拳道の魂である。

日本跆拳道の魂を3名で演武する団体戦は、クラブが望ましい発展を遂げているか否かの指標になっている。選抜されてこそ1流道場としての客観的証であり、出場することそれ自体に意義がある種目と言える。

蹴武型・団体戦の選抜・推薦出場チームは5チーム。

福岡筑紫野跆拳道クラブ(福島良菜、斉藤未有、森慎治) 全日本F T大会団体型2連覇 J T A団体戦型蹴美杯優勝

岡山大学体育会跆拳道部(中島光、野村紅梨子、中濱祐美) 全日本大学大会団体戦型優勝

東京城南雑色跆拳道クラブ(武田龍俊、稲垣海翔、高橋英秀) J T A団体戦型蹴美杯2位

横浜市立大学体育会跆拳道部(坂榮菜緒、片川拓真、長岡泉) 全日本大学大会団体戦型2位

神奈川大学体育会跆拳道(小林資、佐藤秀是、磯部敦也) 推薦

本大会 蹴武の型団体戦の本命は、蹴美杯(J T A団体対抗戦団体型)で優勝した福岡筑紫野テコンドークラブである。昨年度、全日本大会優勝メンバーのA級蹴士・福島良菜と斉藤未有に加えて

前々年度全日本大会優勝メンバーだった準A級蹴士・森慎治が復帰し、バージョンアップの勢いである。
メンバー全員が福岡県筑紫野市出身かつ青少年部出身で抜群のチームワークを誇り、練習量も十分、死角なしの状況。

熾烈なのは2位争い。いずれのチームが勝ち残るか予想が難しい。

各チームは、予選団体型での演武に全力を注いでくる。

その出来次第では、勢いに乗って一挙に優勝ということもあり得ないことではない。



去年の大会で反省する点がいくつもあったので、それを活かし、全力を尽くして、自分の納得のいく型をしたいです。

練習してきたことを悔いの残らないようしっかり出し切れるように頑張ります。

2, 女子組手無差別級の見所

(ヘッドギア有り フルコンタクト・テコンドー・ルール)

2連覇を狙う前根奏子と過去3回制覇の市坪愛、2強対決！

本種目の選抜・推薦出場選手は9名。

前根奏子 (横浜鶴見跆拳道クラブ)

長岡 泉 (横浜市立大学体育会跆拳道部)

村上友里恵 (横浜市立大学体育会跆拳道部)

市坪 愛 (東京江東跆拳道クラブ)

高 伶香 (武蔵小杉跆拳道クラブ)

藤井 彩 (武蔵小杉跆拳道クラブ)

角田知美 (武蔵小杉跆拳道クラブ)

近藤美緒 (横浜市立大学体育会跆拳道部)

福島良菜 (福岡筑紫野跆拳道クラブ)

現代日本のキーワードは、女性の社会進出であり、若い女子の向上心が同世代の男子よりも高いと言われている。J T A内でも、向上心ややる気に関する限り、小学生から大学生まで、男子よりも女子の方が高い。

河明生会長によれば

「今後の日本では、あらゆる分野で女子が男子の上に立ち、仕切る方が望ましい。

そのためにも、若い女子は、同世代の優れた男子に勝るとも劣らない胆力や勇気が不可欠。

なぜなら、理論や理屈だけでは、男子を束ねることは難しいからである。

また、不満や怒り等の感情を抑えられないと集団を統率することはできないからである。

胆力や勇気、感情の抑止等は、「正しい武道」における組手の鍛錬によって涵養することができる。

勇気を出してフルコンタクト・テコンドー・ルールに挑戦し、全日本F T大会に出場する女子選手、

とりわけ横浜市立大学卒業後も持続的に挑戦し続けている高 伶香、角田知美、市坪 愛、前根奏子らは女子の鑑であり、社会人としての活躍を期待できる。

総見での仕上がりを見る限り、市坪 愛の動きが良い。

過去の全日本F T大会で3度優勝した頃のキレが戻りつつある。問題はスタミナ。

対抗は、今大会を制して市坪と並ぶ3度制覇を狙う前根奏子。

練習量に不安はあるが、女子選手NO1の勝負に対する執着心が決勝で爆発すると思われる」

河会長が注目するのが、少女部出身（小1入門）の勇気あるファースト・ペンギン、福島良菜。

男女含めてフルコンタクト・テコンドーに挑戦する最年少であり、しかも最も身体が小さい。

福島良菜は、来年3月、国立九州大学現役合格を目指している文武両道の青年蹴士。

「良菜の勇気は、少女部の模範！」

と絶賛されている。

福島の1回戦の相手は、人魚伝説の高 伶香。

女子選手で最も長身かつ最年長のベテラン、しかも新婚で伴侶の熱い応援で気力十分。

女子組手選手で最も小さく最年少の福島良菜との最初で最後となるかも知れない対決に注目したい。



今回で7回目の全日本大会出場となりました。いつも支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、当日は観ていて楽しい華麗な技を出していきます。



本年は久しぶりに人数の多いトーナメントのため楽しみです。
 昨年は決勝戦で悔しい思いをしたので一層気を引き締めて挑みたいと思います。
 リング上で華麗な技を繰り出せるよう、面白い試合を目指します！

3, その他種目で活躍が期待される選手

壮年部組手で2連覇を狙う小川浩平 (神奈川県立大学体育会監督)



昨年より現役に復帰し、昨年度大会では無事に結果を残すことが出来ました。
 ただ、今年度には壮年部へ新たな参加選手も出場予定となり
 油断は出来ないと感じてますが、練習を継続し二連覇を目指して参ります。

高校生組手で2連覇を狙う安岡洗佑 (高知安芸テコンドークラブ)



これからの一ヶ月練習に集中し気持ちを高め全日本大会に挑みます。

少女部組手で2連覇を狙う寺川 葵 (長崎佐々テコンドークラブ)



自分の出せる精一杯の能力を出せるように最後まで頑張ります。

B級男子組手優勝候補 佐藤秀是 (神奈川大学横浜校体育会)



大学4年間の集大成となるような試合をしたいです。

B級蹴武型優勝候補

相良典隆 (鹿児島曾於跆拳道クラブ)



御指導くださる先生方、
ともに汗を流す道場の仲間、
競い合うライバルたち、
応援してくれる家族...。
いろいろな方々に支えられて、
今年も全日本大会に出場できます。
自分は幸せです。
とにかく全力を尽くします！

少年少女部蹴武型優勝候補

高橋英秀 (川崎跆拳道クラブ)



昨年は蹴武型で優勝を逃したので、
小学生最後の今回の大会で優勝したいです。
団体戦も頑張ります。

小学生組手優勝候補

稲垣海翔 (東京城南雑色跆拳道クラブ)



とても緊張していますが
昨年は初戦負けをしてしまったので
今年はメダルを獲れるようにがんばりたいです。